

題名「画面の向こうの人たちの気持ちを考えよう」

6年 Y.Y

1. 提案のきっかけ

(1) 体験と、調べて分かったこと

SNS上で有名人の悪口などの書き込みを見たことはあるだろうか。私は何度もこの経験をした。相手を傷つける言葉や言い回しは批判ではなく誹謗中傷である。インターネットで調べてみると、悪口を書き込む人ではなく、それを拡散する人が増えていると分かった。総務省によると、書き込みを再投稿しただけでも民事上・刑事上などの責任を問われる。また、他のサイトでは、令和3年の1年間で、誹謗中傷の相談件数が6329件もあり、平成22年から約5倍に増えている。

(2) 解決したい課題

ネット上で怒りにまかせた投稿をすると、炎上したり、本人から訴えられたりすることがある。私達小学生でも、こうなる可能性は十分にあるので、この課題を解決する方法を提案したい。

2. 提案 具体的には、次の2つを提案する。

- (1) 投稿する内容には責任をもつ。名乗らなくても、それが誰かが分かる仕組みがあるので気をつける。
- (2) 悪口などの書き込みを見つけても、拡散せず投稿を削除させる。絶対に投稿を拡散してはいけない。

このように、相手の気持ちを考えたSNSの使い方をすると、相手も自分も、安心してSNSを使用することができるのだ。自分がされたら嫌なことは相手にもしてはいけない。私が提案したこと以外にも、自分にできることを考えてSNSを利用すれば、不適切な投稿は少しでも減ると考える。

3. まとめ

SNSには役に立つこと、面白いことなど、たくさんの投稿がある。だが私達が見て嫌な気持ちになる投稿もあるかもしれない。また、自分がそのような投稿をしてしまうかもしれない。しかし、そんなときは、送る前に一度見直すなど、勢いで投稿しない習慣を身につけよう。SNSはとても便利だが、自分が投稿をするときは、一度相手や見る人の立場になって考え、正しい利用を心がけよう。